

ISO2015 年版再確認 N06 フジネット 藤村久男

◆新しい元号「令和」が発表されました。いよいよ5月1日から新天皇が誕生することになるのですが、ISOも2015版としていよいよ本格的に始動し、それぞれの企業においても、自社業務との融合に努力されておられることと思います。この再確認シリーズがお役に立てば幸いです。今回は、7.5文書化した情報からです。

★7.5 文書化した情報

- ・文書化の要求事項がかなり緩和され、組織がその要否を判断するようになった。(例えば、マニュアル作成の要求事項はなくなった)
- ・文書化した情報の程度(量、詳細さ)は、組織の状況によって考慮し、組織自身が決定しなければならない。
- ・文書化は、できるだけ組織の裁量にゆだねられるようになった。
→文書化した情報の維持：文書(手順・規定等)のこと
→文書化した情報の保持：記録のこと

★7.5.1 一般

- ・QMS、EMSの運用管理上、規格として要求する必要な文書化した情報について規定している

★7.5.2 作成および更新

- ・文書化した情報を作成、更新する際に確実にしなければならないことが要求されている

★7.5.3 文書化した情報

- ・文書化した情報の、必要とされる管理に関する基本事項が規定されている
- ・更に次の細分箇条がある

★7.5.3.1

- ・文書化した情報の管理の要件として
 - a) 文書化した情報が必要な時に、必要なところで入手可能かつ利用に適した状態である
 - b) 文書化した情報が十分に保護されている(例えば機密性の喪失・不適切な使用及び完全性の喪失からの保護)

★7.5.3.2

- ・文書化した情報の管理に当たって取組む要件として、a)~d)がある
 - a) 配布、アクセス、検索及び利用
 - b) 読みやすさが保たれることを含む、保管及び保存
 - c) 変更の管理(例えば版の管理)
 - d) 保持及び廃棄
- ・組織が必要とし決定した外部からの文書化した情報の管理も必要。
→この規定の中に“アクセス”と言う要求事項があるが、案外これについては見落としが多い
→アクセス：文書化した情報の閲覧だけの許可に関する決定。又は、文書化した情報の閲覧及び変更の許可及び権限に関する決定を意味している

◆今回は、7.5文書化した情報のみでこの続きは来月にします。次の箇条8.1は量が少し多いので掲載しきれません。悪しからずご了承ください。



人間五十年、化天の内をくらぶれば夢幻の如くなり

作者不詳「敦盛」より

織田信長が好んで舞ったと言われる幸若舞「敦盛」の一節です。

人間の一生は短く、天井の世界と比べれば、夢や幻のようなもの。時には、その短さに焦りや虚しさを覚えることもあるかもしれません。

しかし、人生が永遠と続くものならば、誰も懸命に生きていこうとしないでしょう。人生は短くはかないものだということが分かっているからこそ、人は自分の夢のためにすべてをかけて生きていけるのです。

〔心が和む日本の名言より〕

しごとのきほん

くらしのきほん 100

松浦弥太郎 著書より

●スタンダードを下げないように

いつも通っている飛び切りおいしいコーヒーのお店で、普通のコーヒーを出されたらがっかりします。お店でも仕事でも人でもそれぞれのスタンダードがあり、その水準を下げないことがプロフェッショナルではないでしょうか。自分の今いるステージから降りないこと。できればさらに上のステージに登るよう努力すること。下に行けば楽になるぶん、楽しさもやりがいも失われます。

●目線を変えてみる

仕事をしていてスタックしたら、ポン！と目線を変えましょう。「このプロジェクトの私」ではなく、アルバイトの人の目線、自分の上司の目線、社長の目線、お客様の目線、おばあちゃん、子供の目線で考えてみる。上だったり、下だったり、横だったり斜めだったり、目線を変えてみると、行き詰まりを打ち破るヒントが見えてきます。

毎月個となるをお読み頂きありがとうございます。筆頭にも申し上げましたように新しい元号「令和」が発表され、いよいよ5月1日から「令和天皇」の時代が始まります。私達もこれを契機に更に飛躍できるよう頑張りたいものです。 藤村久男